

# 科学技術・イノベーションについて検討する スタディグループ（SG）の進め方（案）

## 1. 本 SG の目的・趣旨

海洋政策を推進する上で重要な基盤となる海洋科学技術・イノベーションは、我が国の経済・社会の発展、自然災害や気候変動など地球規模課題への対応、経済安全保障、海洋環境の保全等に貢献するものであり、研究開発で得られた知見・技術・成果の社会実装を進めていくことが期待される。第3期海洋基本計画（平成30年5月閣議決定）においても、「我が国の強みである科学技術を将来にわたり進展させ、世界最先端の革新的な研究開発を進めることが、海洋を知るための継続的な観測・調査の充実を含め海洋政策の不可欠の前提となること。」として、海洋科学技術に関する研究開発の進展が理念の一つに掲げられている。

令和元年に開催した「科学技術・イノベーションに関する SG」では、海洋科学技術全般の最新動向を把握するとともに、水産業・洋上風力発電などの海洋産業に関する技術的課題について検討を行った。また、令和2年に開催した「海洋科学技術・イノベーションについて検討する SG」では、エネルギー・資源、海上輸送、海洋情報などを主な検討テーマとして、概ね10年先を見据えて、次期海洋基本計画において取り組むべき課題を整理し、今後の海洋政策の指針について検討した。

令和2年6月には、AIやIoTなど科学技術・イノベーションの急速な発展等を踏まえ、我が国の経済社会の発展および国民の福祉の向上を図るためには、科学技術の振興およびイノベーションの創出の促進が極めて重要であるという問題意識に基づき、科学技術基本法（平成7年制定）が25年ぶりに改正された。また、この法律に基づき、令和3年3月には、第6期科学技術・イノベーション基本計画が閣議決定された。本計画は、Society 5.0の未来社会像である「持続可能性と強靱性を備え、国民の安全と安心を確保するとともに、一人ひとりが多様な幸せを実現できる社会」を目指すべく、カーボンニュートラルやデジタル技術の活用による社会変革、研究力の強化、新たな社会を担う人材の育成に取り組むこととしている。さらに、令和2年12月には「2050年カーボンニュートラルに伴うグリーン成長戦略」が策定された。本SGにおいても、こうした低炭素化や科学技術・イノベーション政策全体の大きな動きを踏まえつつ、幅広い分野の知見を総合的に活用し、議論、検討を行うことが重要である。

本SGでは、昨年のSGから引き続き、「第6期科学技術・イノベーション基本計画」を念頭に、次期海洋基本計画策定に加えて今後10～20年先を見据えて、海洋科学技術・イノベーションの推進のために必要な方策について検討を行う。

## 2. 主な検討テーマ

- (1) 昨年度のSG等での議論に加えてさらなる議論が必要な事項や取り上げなかった事項を中心に、内外の先進的取組や動向について俯瞰し、潜在力を有する海洋科学技術・イノベ

ーションを把握する。

具体例：レアアース泥回収・調査技術開発、地球温暖化対策（ブルーカーボン、海中CO<sub>2</sub>回収技術開発、CO<sub>2</sub>海底下貯留など）、海中データセンター、海洋宇宙連携（衛星VDESなど）、海洋観測・監視システムの高度化・効率化（Argoなど）、水産業におけるイノベーションの推進、量子技術、海の次世代モビリティ（AUV、ASV、ROVなど）

- (2) 昨年度のSG報告書も踏まえ、海洋科学技術の商業化に向けた海のデジタルトランスフォーメーション（DX）や人材育成等の環境整備に関して、現状を把握するとともに、今後の指針を検討する。

具体例：異分野融合（異分野データとのネットワーキング強化）、人材育成、知的財産化・国際標準化の促進、デジタルトランスフォーメーション（情報インフラ整備、海洋ビッグデータの構築、データドリブン型研究の推進）、法令整備や規制緩和

なお、本SGの検討にあたっては、必要に応じて、今年度設置された「グリーン成長分野における海洋産業の競争力強化について検討するプロジェクトチーム」の発表資料等も適宜参照することとする。

### 3. 構成員

- (1) 参与

佐藤参与（主査）、関心を持たれる参与

- (2) 有識者

検討テーマに応じた有識者（産業界、公的機関、大学等）の参加をお願いする。

- (3) 関係府省庁

内閣府（科学技術・イノベーション推進事務局、宇宙開発戦略推進事務局、総合海洋政策推進事務局）、文部科学省、農林水産省、経済産業省、国土交通省、環境省等

### 4. 今後のスケジュール案

- (1) 第1回SG

・SGの趣旨説明

- ・ヒアリング①

(2) 第2回 SG

- ・ヒアリング②

(3) 第3回 SG

- ・ヒアリング③

(4) 第4回 SG

- ・ヒアリング④

- ・報告書とりまとめに向けた議論